



# 展示コーナー ※予定

## 第一会場

記者時代の夢二を紹介

- 読売新聞に投稿「可愛いお友達」
- 読売新聞へ入社
- 博覧会スケッチ
- 季節の花と公園めぐり
- 競馬・相撲・歌舞伎スケッチ
- 事件・法廷スケッチ
- 紀行「涼しき土地」
- 読売新聞が元祖「夢二式」
- ↳夢二式美人への展開
- ①明治末から大正
- 読売新聞を退社
- 雑誌の仕事 ↳読売新聞と並行して

## 第二会場

読売退社後の夢二が取材を受けた、  
ニュース及び寄稿した記事を中心に紹介

- ニュースになった夢二
- 挿絵を担当 ↳新聞小説「審判」
- 文芸欄・婦人欄へ寄稿
- 新聞広告と夢二著書
- 最晩年の夢二と訃報
- 大正時代の話題6選
- ↳読売新聞と夢二画より
- 松井須磨子／浅草オペラ／童謡
- 関東大震災 カフェと女給
- モダンガール
- 銀座 ↳読売新聞社があった街
- 夢二式美人への展開 ②大正から昭和

出品点数 ※予定

250点

# ごあいさつ

**大**正ロマンの画家として知られる竹久夢二（1884-1934）は1907年（明治40）4月、読売新聞に入社します。紙面には若き日に記者として取材した、22歳の夢二による瑞々しい時事スケッチが掲載され、さらに紀行文の連載も手掛けました。

本展では記者としての仕事をはじめ、公私にわたり注目され取材対象にもなった夢二に関する記事もあわせて紹介、加えて明治末期〜昭和初期に、紙上で情報発信されたニュースや話題を夢二作品とともにご覧頂き、読売新聞と夢二の関わりを展覧します。

# 竹久夢二 プロフィール

本名・茂次郎(もじろう) 1884-1934(明治17年-昭和9年)  
岡山県生まれ 画家・詩人 **【2024年は生誕140年】**



センチメンタルな画風の〈夢二式美人画〉作品をはじめ、恋多く、旅も重ねて大正ロマンを象徴する存在として広く知られる。

明治・大正期の雑誌に発表した数々のイラストレーションをはじめ、日本画・水彩画・油彩画・木版画、さらにデザイン分野の作品を手掛け、詩、童謡の創作にも才能を発揮し、詩画を融合させた芸術を開花させた。

# 出展作品(広報用画像)の紹介

※画像①は表紙に掲載



②博覧会スケッチ (掃除人)  
『読売新聞』1907年(明治40)5月15日掲載  
上野公園で行われた東京勸業博覧会を取材。画題を「掃除人」としながら、来場者のマナーを諷刺している。



③見納めの谷中村  
『読売新聞』1907年(明治40)7月6日掲載  
足尾銅山鉱毒対策という大義名分で谷中村は遊水地として沈められ、村民は他所への移住を余儀なくされた。



④夢二画集 春の巻 (広告)  
『読売新聞』1909年(明治42)12月15日掲載  
夢二が初めて出版した画集の広告が、読売新聞に掲載。



⑤ 運命 (四)  
『読売新聞』新聞小説「審判」より  
1925年(大正14)  
新聞小説「審判」(加藤武雄・作)の挿絵を夢二が担当。  
本作は、竹久夢二美術館所蔵の原画。



⑥ APL・FOOL 1925年(大正14)  
「大正時代の話題6選」の【カフェと女給】コーナーで展示。  
雑誌『婦人グラフ』の表紙絵に描かれたカフェの女給。



⑦東京銀座千疋屋 昭和初期  
「銀座～読売新聞社があった街～」コーナーで展示。  
夢二は銀座千疋屋のデザインも手掛けた。



⑧「雛による展覧会」ポスター  
1931年(昭和6)  
「銀座～読売新聞社があった街～」コーナーで展示。銀座の資生堂ギャラリーで、夢二は人形展を開催した。

# 展覧会の見どころ

- ✓ 読売新聞記者時代を取り上げる、夢二展史上初めての展覧会
- ✓ 読売新聞紙上で、ニュースになった夢二記事に注目！
- ✓ かつて読売新聞社があった、銀座と夢二ゆかりの場所を紹介

図版はすべて竹久夢二・画  
①～④図版は読売新聞社提供／協力ヨミダス

# 展覧会概要

## 展覧会名称

竹久夢二と読売新聞

～記者・夢二の仕事とそれから～

主催 竹久夢二美術館 読売新聞社

協力 ヨミダス

会場 竹久夢二美術館

住所 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

Tel 03-5689-0462

会期 2024年9月28日(土)  
～2025年1月26日(日)

休館日 月曜日、年末年始(12月28日～1月3日)  
※10/14(月祝)、11/4(月祝)、1/13(月祝) 開館、  
10/15(火)、11/5(火)、1/14(火) 休館

開館時間 午前10時～午後5時  
(入館は4時30分まで)

## 交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び  
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩7分  
JR上野駅 公園口より徒歩20分



## 入館料

一般 1000円 大・高生 900円  
中・小生 500円

※弥生美術館と二館併せてご覧頂けます。

## ギャラリートーク

10/12(土)、11/10(日)、12/14(土)、1/12(日)  
いずれも午後2時より、担当学芸員が展示解説を  
行います。(所要時間約45分)

## ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>



9 展覧会チラシ

新刊 9/19発売!  
『夢二の東京さんぽ手帖』



石川桂子・著(竹久夢二美術館学芸員)

中央公論新社 2200円

夢二が東京でよく訪れた店舗や街を振り返り、  
今に伝わる老舗の味や逸品、古き良き時代の街  
並みに思いを巡らせて、令和の東京を新たな視  
点で再発見できるガイドブックです。

約100年前の貴重な写真や風景絵葉書、及び  
夢二画を多数掲載!

展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 石川桂子 までお願いいたします。

Tel 03-5689-0462 fax 03-3812-0699



FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 石川 行

竹久夢二と読売新聞

【画像使用申込書】

～記者・夢二の仕事とそれから～

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。  
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。  
また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 石川宛